

廃止の県有財産について

有効活用を県と協議

質

旧緒方工業高校の跡地利用については、県は一団のまとまった土地であり、地元の地域振興のために、一体的に活用されることが望ましいとの見解を示しているが、市の今後の利活用策は。

答 市長

庁内検討委員会を立ち上げ、県と協議しながら最善策を探ってまいりたいと考えています。

質

旧県立三重病院の建物は、耐震性もあり、市の活性化のためにも有効な活用を期待しているが、今後の対応は。

答 市長

三重診療所の廃止につきましては、県と市の共同責任であると考えていますので、廃止の決定を行った後、施設の有効活用ができるよう、県と協議してまいりたいと考えてます。



えとうちよこ
恵藤千代子



利活用されていない旧緒方工業高校

質

新庁舎の完成は本年12月末であり、駐車場など、市民が利用しやすい環境づくりが肝要であるが、新庁舎周辺の整備計画は。

新庁舎周辺の整備は

～ 多くの駐車スペースを確保 ～

答 企画部長

現庁舎を解体し、主に駐車場として整備する方向で進めており、新庁舎側にできるだけの多くの駐車スペースを確保し、市民の皆さまの利便性や安全性を確保するため、旧大分農政事務所につきましては、用地取得後に建物を解体する方針です。今後は、市道の付け替えなども考慮しながら、周辺整備を行ってまいりたいと考えています。



旧大分農政事務所

市民との約束を守れ

～ 市と県の共同責任です ～



ふか た せい ぞう
深 田 征 三

質 県立三重病院と公立おがた総合病院とを統合し、医療資源の集約を行い、市民の健康を守るため、診療内容・サービスの質を高め、地域で医療が完結するよう地域医療の再生と地域の生活基盤の確保のために、平成22年10月1日に三重診療所を開院したが、わずか1年半にして廃止の方向となった。

市は廃止の理由に、患者の減少によるものとしているが、統合に至るまでの2年半の間、さまざまな準備委員会などを開催した中で、今日の経営予測はできなかったのか。

答 市長

医師確保に奔走してまいりましたが、結果として、このような事態となりました。

質

廃止することにより、開設に伴う診療所の施設整備予算6000万円、さらに、1年半の開院に伴う収支予測約6090万円の損失、合計1億2090万円の赤字経営を、市民に対しては財政改革だ、厳しい財政の中にと訴えながら、公平・公正の立場でどう処理されるべきものなのか。また、誰が責任をとるのか。

答 市長

損失は、市民病院本体の経営の中で処理を行っております。

また、廃止については、市と県の共同責任であると考えています。

質

常勤医師27名の確保を目指すも、統合時23名、現在20名となり、21の診療科目を維持するには危機的な状況である。

今回の廃止を契機とした反省に基づき、今後の市民病院の健全経営と実現可能な医師確保対策について伺う。

答 市長

10対1の看護体制や療養病棟の改変、さらに、国の医療制度改革なども視野に入れ、中長期事業計画を立ててまいります。

医師確保について

は、市と県で行ってきたことを、これまで以上に地道に続けることが重要であると考えています。



廃止となった旧三重診療所